

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171300116
法人名	株式会社マジェスティック
事業所名	グループホーム芦刈紀水苑
所在地	佐賀県小城市芦刈町永田字六丁搦3220-2 (電話) 0952(66)6345

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年3月27日	評価確定日	平成21年6月2日

【情報提供票より】(平成21年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺き平屋建て
------	-----------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	86.8歳	最低	66歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	しらみず診療所
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海苔養殖や農業を中心とした集落で、20戸程の静かなたたずまいの家が建ち並ぶ一角に位置し、木造平屋建ての玄関は家庭的な感じの造りである。入居者の方も和やかな様子でスタッフとの信頼関係が感じられる。居室入り口には職員手作りの表札が掛けられている。また、リハビリに力を入れ、歩行器やリハビリ機器を設置し、理学療法士やスタッフによる機能訓練プログラムが入居者個々に合わせて用意されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	スタッフ会議などで外部評価等について話し合いの場を設けている。また、運営推進会議等で事業所の内容や実情を伝え、地域への理解につなげている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はスタッフ会議や日々の連絡会議等で取り組み、理念に基づいたケアのあり方について入居者や家族の意見も参考にしながら取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地域包括支援センター、地区区長、民生委員、家族代表、施設職員、地域の方の参加を得て開催している。会議では、事業所の事業計画や報告が主であるが、ボランティアの協力依頼等も行っている。地域の方達の参加を得た防災訓練や講習などにもつながっている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者やスタッフは、家族会や面会時に声を掛けて話を聞くことに心がけ、入居者の日常の様子や健康状態などを伝えている。また、家族会、面会時などに苦情や要望等を聞き出すよう心がけている。苑だよりと近況報告の手紙を添え、家族だけでなく他県の近親者にも送付されている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議を活かし消防訓練等、地域住民の参加を得て開催するなど、地域との関わりが広がってきている。また、自治会にも加入し、地域の事業や回覧などによる地域情報も得ている。地域の人たちも祭りの時などは、施設へ立ち寄って太鼓を披露したりして交流が少しずつ広がってきている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係を意識した基本理念が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員も利用者も、来訪者にも目につくよう玄関入り口とリビングに大書して掲げられている。職員も常に仕事の中で理念を活かすことを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも加入し地域の情報なども得ている。また、地域の方々と共に苑内で防災訓練やAED使用の講習会を開催するなど、近隣との交流も深まっている。地域の祭りなどでは苑内に立ち寄って太鼓を披露してもらったりして入居者に楽しんでもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価についてはスタッフ会議等での話し合いを通じて取り組み、外部評価の結果についてもスタッフ会議などで課題となった改善項目の具体的な検討を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地区区長、民生委員、家族代表、施設職員、地域の人などの参加を得て開催されている。会議では、主に事業報告や行事等の計画が説明されている。会議を利用して地域の人たちと共に防災訓練等の講習も実施されている。	○	自己評価や外部評価で明らかになった課題への取り組みや、問題提起をするなど、報告、情報提供にとどまらない、双方向的な関係が築かれ、地域の更なる協力が得られるよう運営推進会議の更なる充実を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは用事がある時は出向いて相談するなどしている。また運営推進会議などを通じて事業所の実情などを伝えている。	○	事業運営やサービス提供上の課題等、市担当者に情報提供するなど、市担当者と共に課題解決に向けた取り組みや、市当局からの情報提供など、協働関係作りに向けた更なる取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の苑だよりの発行、配布の他、面会時や家族会など、機会ある毎に報告が行われている。苑だよりに入居者の写真などを貼って送付したり、近況等を記した手紙なども添えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が年2回開催されており、入居者と共に食事を囲み意見、要望を聞く場を設けている。面会時にも不満、苦情等が出やすいような雰囲気づくりに努めている。今後、家族会などの機会に、不満、苦情などが出やすいような会議のあり方を検討することとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職等がある場合は、新任職員の研修期間を設け、事前に顔を覚えてもらうような工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所でのスタッフの勉強会や系列事業所間による合同研修会などに積極的に参加している。また、日常業務の中でも、管理者やスタッフ間での指導助言が行われ、スタッフの資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列事業所間での交流研修に参加し、事例発表等を行なうなど、サービスの質の向上や職員の資質の向上に努めている。また、管理者の研修会も実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ほとんどの入居者は病院からの入居者であり、申込時に管理者、ケアマネジャーが病院を訪問し、主治医、家族、本人等と面談し、体験入居などを行って馴染んでもらうように努めている。緊急の場合は入居時、管理者やスタッフが出向き、出来るだけ早く馴染んでもらうよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の中に示されているように、お互いを尊重し合うということで、日常の会話の中で、スタッフが教わったり、励まされたりする関係が築かれており、家庭的な関係作りを心がけた援助がなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の意向、希望は、日々のスタッフと接する中で把握するように努めている。利用者の要望等に対しては、時間を見ながら散歩や草取り、運動など可能な限り希望に添えるよう援助がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族等、管理者、ケアマネジャー、看護師などで話し合い、具体的な計画を立てている。月1回のスタッフ会議などで情報を出し合い、入居者本位の計画が立てられるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1回の割合で介護計画の見直しを行っているが、状態が変わった時は主治医や家族、ケアマネジャー等と相談し、サービス担当者会議などを経て、状態に即したプランを作り上げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特に入居者の機能回復訓練には力を入れており、上下肢の訓練のための平行棒、吊り輪、自転車風の機器などを備え週1回の理学療法士の指導や日常のスタッフによる訓練などが行われている。外出支援なども家族と相談するなどして対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の要望によりかかりつけ医の受診を支援している。また、事業所の協力医による月2回の往診についても、入居時に家族等の同意を得た上で行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重要事項説明書により重度や終末期におけるケアの指針や情報提供に関する同意書等を作成するなど、家族等と十分話し合いが持たれている。今後そのような事態が発生した場合は、主治医や家族、スタッフなど関係者により連絡を取り合いながら対処していく方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常のスタッフ会議や研修会等で個人情報保護の理解を深め、日常の声かけ、言葉遣いなどについても入居者を傷つけないよう配慮している。また、パンフレットの作成の際の事業所の様子などの写真掲載にあっても本人と特定できないような配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは穏やかで入居者の希望を大切に、起床時間、食事時間、入浴時間、散歩など個人の希望に添った支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は宅配と職員による買い出しで、行われている。1日30品目を目標にした栄養摂取にも配慮している。利用者の好き嫌いによるメニュー変更も出来る限り対応している。また、入居者の出来る範囲で食事の準備や後片付けなど、一緒になされている。時には外食なども楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められているが、その日の入浴希望に合わせて実施されている。また、体調不良で入浴困難などときは清拭をするなどして支援している。さらに入浴剤を使うなどして気分のリフレッシュなどにも心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人や家族の希望は、入居時のアセスメントで把握している。また日々の生活の中で本人の希望や意向を把握し、希望に添って、レクリエーションや運動などを行っている。また、自身で出来ることは極力してもらい、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近所の散歩や、街角の仏殿の参拝など入居者の希望に添った支援がなされている。また、時にはバスハイクやタクシーを利用しての外出支援も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関も部屋も鍵をかけないケアがなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議などを活用し、施設内で近隣の方々に集まってもらい消防訓練、避難訓練等の研修、訓練を実施するなどしている。また、年2回の消防訓練も実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は主食副食を毎食毎に記録している。栄養バランスも関係の栄養士に依頼して定期的にチェックされている。水分摂取量も1日のスケジュールの中で定めて行われている。特に1日30品目を摂取目標とした献立を心がけて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は明るく、静かで日当たりも良い。入居者が集う場所にはソファや椅子が置かれ心地よく過ごせるような場所作りがされている。壁面には行事の写真や利用者の写真、居室入り口にはスタッフ手作りの装飾された表札が掛けられたり、季節感のある装飾が施されている。台所は対面となっており、家庭的な感じが窺われる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族の思いを大切に、家族から送られてきた近況の写真や手芸品が壁面に張られたり、施設で作る手作りカレンダー等も張ってある。また、運動を希望される人には運動がしやすいような工夫もある。入居者個々の要望に応じた居室作りが支援されている。		